

## 平成29年度第1回野田市文化財保護審議会議事録

開催日時 平成29年8月31日（木）午前10時から午前12時まで  
開催場所 市役所7階 706会議室  
出席委員 下津谷達男委員長、高梨兵左衛門副委員長、石田年子委員、  
日塔和彦委員、萩原法子委員、大野要修委員  
事務局 東條三枝子教育長、杉山一男生涯学習部長、伊藤公夫社会教育課長、  
川野尚武社会教育課長補佐、岡安智彦社会教育課文化財係長、  
星野保則社会教育課文化財係主任主事

（委員長挨拶）

（教育長挨拶）

（伊藤課長より平成29年度事業の進捗状況について説明）

- 委員長：指定文化財に関しての助成金というのは1件いくらになっているか。  
課長：有形文化財の助成については1件5千円となっている。無形民俗文化財については1件10万円を5団体に交付、その他に三ツ堀のどろ祭りは行事自体が活動休止中のため1万円、これは道具類の保存ということで資料の維持のため交付している。
- 委員長：有形文化財に1件5千円という金額は、市の文化財行政が始まった頃から同じだと思うが、各地の実態を調べていただくと分かるが5千円という金額はない。
- 課長：今、事業の全面的見直しを市全体で行っている。補助金等も1度ゼロベースで考え直し、検討している。
- 委員長：財政的な問題もあると思うが、検討してほしい。
- 日塔委員：旧花野井家住宅だが、指定にはなっていない表門の屋根の葺き替えは終わったのか。
- 課長：薬医門については27年度に行った。
- 日塔委員：門の脇に説明板があったが、きちんとした説明に直さなければいけないと思う。その辺はやっているのか。
- 課長：解説板については、だいぶ昔に作ったもので字も擦れているため、作り直す方向で進めたいと考えている。
- 日塔委員：薬医門も一緒か。
- 課長：行う場合は薬医門も合わせた説明になると思う。
- 委員長：解説板が半分くらい読めなくなっている。
- 課長：今は小学生が見学に来ている時に紙の解説を渡しているが、その内容に近くなる。
- 日塔委員：もし書き直すのであれば、この審議会で見せてほしい。

課長：その際にはご指導仰ぎたい。

大野委員：教育普及活用について、各公民館で歴史等の講座を行う気運になっているが、どのように捉えているのか教えていただきたい。特に出前授業などを考えた時に、例えば関宿公民館だと小・中学校の夏休み等を利用し、その中の特別授業で関宿の歴史等、鈴木貫太郎翁について話しをするものがあるので、他の公民館においても同様の活動が行われているのではと思うがいかがか。

課長：郷土愛を醸成しようということで、郷土史的な講座を各公民館で実施している。その中で社会教育課の学芸員に講師の派遣要請等があれば受けている。その他に小学校20校の小学6年生を対象に野田の歴史について興味を持ってもらいたいと考え、特に貝塚の話しや、火おこし体験、肉切り体験といった実技を入れ行っている。例えば関宿公民館等の夏休みの子どもの学び舎等で、養成があれば実施が可能である。

(伊藤課長より災害関連文化財の調査について説明)

委員長：少し調査の時間がかかり過ぎているがもう少し短縮できないのか。

星野：今年度10月から新任の学芸員を採用して主に古文書調査にあたってもらうのだが、どのくらいの実力があるのか不確定なところがあるのでスケジュールに若干余裕をみている。なるべく早く指定にもっていく。

石田委員：何に対しての古文書の調査なのか。天明の飢饉、爆発等を挙げているが、具体的にどれに関して指定するのか分からない。

星野：飢饉関係の石碑、長命寺の過去帳やその他に古文書として山崎家文書や高梨家文書があり、その調査を進めている。

日塔委員：それは対象としては飢饉なのか。

星野：はい。

石田委員：飢饉塔だけか。それとも天明の出州の石もあるのか。

星野：それは、今後の調査の成果を見て検討していただきたい。

石田委員：対象となっている所有者や飢饉塔などを管理している人達には知らせないのか。出州の噴火塔の事を地元の人達は知らないので指定前にも説明をしていただき、なるべく早く地元の人に知らせてほしい。

星野：指定候補として確定した段階でまず所有者にお知らせし同意を得ることになる。指定に関して候補に挙がっている旨は事前に知らせない。

石田委員：こちらから大事だと教えることは問題ないか。

星野：文化財として大事なものということと、指定するということは別

委員長：飢饉関係は高梨家の文書もある。

日塔委員：飢饉に関して享保・天保・天明がある。

石田委員：天保の石はたくさんあるので、色々なお金を出した造家さんに残る資料等を全て指定するのか、安心坊に建っているものだけを象徴的に指

定するのか。

星 野：それはまだ。

委員 長：それを調べるとなると時間がかかるということか。

(石田委員より市内民俗文化財調査成果の報告について説明)

日塔委員：茨城県の北茨城市に大津港という港があり、そこに船神輿があつて国指定になっている。最初は船として浮かべていたものが陸地化して浮かべることができなくなり車軸をつけて船神輿にしてしまったということ。そういう事例があるので船関係のお祭りについて調べているが、全国的に見てもかなり多い。

委員 長：川船ではないのか。

日塔委員：海に浮かべる大きな千石船のようなもので、館山の方はどちらかという屋台で飾りはない。

石田委員：野田の船大工はどんな方がいたのか。神輿が60数か所あつた。太子堂の新明神社は多くて5基くらいあり、2基が飾つてあつた。野田市の大杉信仰の塊として調査をすると、1年や2年では無理なのでもう少し調べる。

委員 長：今、石田さんを中心として野田市地方史懇話会で調査をやっている。

石田委員：大正の頃に一緒に作ったという証言もあるので、一斉に大正年間にこぞつて作ったのではと思う。

委員 長：私も祭りの時に全部見て回り、六所神社に行ったが、みんな造りが似ている。

日塔委員：間違いなく船大工が作っているが、実際の海側の船大工ではなく、少し格好や細工が本物のものとは違う。地元の船大工が見様見真似で格好のいい船を作った感じがする。一連として文化財にできれば面白い。

石田委員：神輿のなかで大杉神輿と普通の天狗神輿とはどう違うのかと思つていたがお面が係るものだった。近頃は神社に伺つてみてもどこを見ればいいのか分かつてきたので、調査にまだ2、3年はかかると思う。

萩原委員：非常に野田市には大杉信仰に係るものが多い。市川市にも大杉信仰があり、周辺では松戸などにもたくさんある。現在どのような形で信仰が残っているかということをしかりと調べてみた方がいい。人形は4年程かけて竹のつくねの山車人形を調べている。市川の堀ノ内は山の中でも信仰があるが、それは海関係というよりも幣束で祓つて歩く悪魔祓いや疫病祓い、そのような信仰が大事にされている。信仰がどのくらい野田市にも残っているのかも調べてほしい。

日塔委員：市川には船神輿はあるか。

萩原委員：国分に一つある。海、水関係というよりはお祓いです。疱瘡祓いなどが多い。水神祭りなども行っている。川沿いには水関係の大杉信仰が残っている。

(伊藤課長よりその他について説明)

日塔委員：文化財保護法が間もなく改正される。国交省の歴史遺産にまつわる助成等のバックアップが手厚くなる。その中で中心になるのが登録文化財だ。野田市の場合、建造物の登録文化財が多くなり、指定文化財が最近はない。本来は指定が一番重要な文化財保護であり、登録文化財はそれを補完するもの。活用にはばかり振れると保存が置き去りになってしまう。野田市においてもこれからは建造物の指定ということを考えてほしい。

委員長：指定の方にももう少し力を入れていただきたいということだね。

大野委員：千葉県では最近では学芸員の採用をしていない。このままでいくと学芸員が全く足りないということになる。いかにして学芸員を確保して、その活動を広げ活用していくかということが日本においても非常に大切なのではないかと思う。

委員長：県立博物館を県から市に譲るという傾向があるから、そういうこともあるからだね。

大野委員：関宿城博物館を県から市の方に譲るという話はあるようだが、県はこれからどのようにして千葉県の文化をまた文化財も含めて考えているのかが分からない、正直少し手薄になっている感じがする。

石田委員：郷土博物館もずっと長い期間研究をしている方はいない。何年かするといなくなってしまう。だから最初是一緒に研究ができてよいなと思っていてもいきなりなくなってしまう。知識の積み重ねが続かない。展示に関しての知識はあっても野田に関しての知識がどのくらいあるのかが疑問。

日塔委員：今の傾向としては学芸員の資格を持っている人を一般職として採用するということが行われている。学芸員の専門職としての採用はほとんどない。

大野委員：実際に資格を持っている人が各地域の文化財等を掘り起こし保存していく形が望ましい。

萩原委員：市の文化財の担当者が何故頻繁に変わるのか。じっくりと取り組むことが大事ではないのか。

高梨委員：学芸員はある程度深い知識が必要になる訳で、頻繁に変わるのはよくない。

委員長：本来、学芸員は変わるものではない。しかし人事問題になると、待遇問題などもかかわってくる。